

年間第29主日

第一朗読 出エジプト 17・8-13

第二朗読 二テモテ 3・14～4・2

福音朗読 ルカ 18・1-8

2025.10.19 9:30 ミサ
カトリック高円寺教会
主任司祭 高木健次神父

わたしたちは、特に身近な大切な人が元気をなくしていたら元気づけてあげたい、また何かに傷ついていたら癒すことができるだろうかと考えたり、また色々な迷いの時には良い道を見い出していく、そういう手助けができたらいいなと思うんじゃないかと思います。

でも一方で、自分はその人の人生を左右する、そういう立場にはないというか——冷静なあるいは謙遜な思いを持っている方だったらなおさら——自分が何か影響力を与えるというような者ではないので、その人のためにできることといえばお祈りをする、神様に委ねることなんだというふうに、ある意味では冷静で謙遜な、互いに愛し合うための一つの道であると思います。

でも一方で、信仰を通してわたしたちがイエス様ご自身との一致を深めていくなれば、わたしたちの中にイエスご自身が働いてくださり——どのような仕方では分からないけど——わたしたちを通してイエス様ご自身の力が、わたしたちが心配している周りの大切な人たちへ及んでいくのだと信じて良いと思うんです。

ルカの福音書とそれに続く使徒言行録というのは——特に使徒言行録ですね——イエスの弟子たちが福音書に出てくるイエス様がなさったのと同じような、癒しの業や奇跡を行っていくという、そういうお話には、イエスと一致して生きる者の中にはイエスご自身が働かれるのだということをわたしたちに思い出させてくれているように思います。イエスと一致してその人が何かパワーを得るとか、そういうことではなくて、イエスご自身が働かれることを通して、互いに愛し合うという中にイエス様の癒しの力、救いの力、そして導きの力が及んでいくのだということなんじゃないかと思うんです。

パウロは、生きているのはもはやわたしではなくて、わたしの中におられるイエスなんだということを、ある時にある手紙の中で言うわけですけども（ガラテヤ 2・20 参照）、これは、パウロとか、アシジのフランシスコとか、マザーテレサとか、そういうまさにその神との一致がどのようなものであるのかということを示すために神様ご自身が人類に与えてくれた聖人たちだけに与えられた特権的な状態なのではなくて、信じる者がすべてそこを目指していくイエスとの一致の中で、イエス様ご自身が一人ひとりの中に働き、その力が周りの人に及んでいくという、そういう神様が望んでおられる、まさに神の国ということを表しているように思います。そういう意味では、わたしたちもそれぞれ聖人ではないけれど、でも大切に誰かのために心を砕く、心を向けるときに、自分の中にイエス様との一致を深く求めていくなれば、その力が相手に及ぶのだと信じて良いように思うんです。

もちろんそのためには、主の祈りを 1 回唱えるとか、そういうことだけではなくて、まさに今日の福音の中で「絶えず祈りなさい」っていうことの中には、ロザリオの祈りに時間を取るとかそういうこと——もちろんそれも大きなことだけど——そういう言葉の祈りだけではなく、また黙想だけではなく、瞑想だけではなく、一人ひとりが自分自身の罪と向き合い、そしてそこから神の赦しの中でイエスと様の恵みを妨げているものから解放されていこうという、一人ひとりの信仰生活が前提になってると思います。そして何よりも、自分の問題は神様に委ねて、そして周りの他の人のために本当にその心に向けている、その中にイエス様自身の力が働いていくんじゃないかなと思います。

だから、自分の問題は神様に委ねるとともに、イエスとの一致を妨げるような罪から清められていくことを願いつつ、信仰生活を通してイエス様との一致、まさに御聖体拝領ということを通していつも表していることが一人ひとりの日々の働きの中に現実になっていくように、その恵みを願い続けるということの中に、誰かとか何か自分とは別の仕方ではなくて、わたしたちの中にイエス様の力が働いて、わたしたちが心配している愛する誰かのために本当に力を発揮することができるようになります。それを神の国と言うんだろうし、そして今日、特に「世界宣教の日」ですけども、本当の福音宣教っていうのは、お互い同士が神様の力、恵みの入口になり合

うって言いましょうか、伝達し合う、そういう関係が広がっていくということなんではないかなと思います。

教会というのは、まさに他の人を思い合う人と人との繋がりそのものである。建物でもなければ、組織でさえもそこに限定することはできないと思います。カトリック教会っていうそのものが、これだけの人数が集まっていますっていう、世界に誇示するため、あるいはこれだけの人を集めることができたっていうような、そういう数字ではない。むしろ一人ひとりが互いを思い合う、そしてその思い合うことが実際に力を発揮するようにイエス様ご自身が働いてくださるように、一人ひとりの思いをイエスとの一致に委ねる。それこそが教会だし、福音宣教ということになるのではないかと思います。

わたしたちが今日、世界宣教の日を通して、それぞれが自分の身近にいる、神様が共に助け合うように望まれたその繋がりをもう一度見い出しながら、そのためにはイエス様ご自身がわたしたちの中に働いてくださるのだという希望を新たにして、でもそれはただ漫然と生活していることを通して洗礼を受けただけでイエスの働きがその力を持つというよりは、わたしたち自身がそれを妨げるような色々な悪へのいざない——昔に言うならば——、あるいは罪の働きから清められていくことを求め続ける思いの中に実現していくと思います。

一人ひとりの信仰生活が、自分の救いのためだけではない、むしろ周りの人への愛がイエスの力によって実際の力を持つためにその信仰生活があるということを、体験を通して神様ご自身がわたしたちに示してくださる希望を持ち続けるとともに、そのために恵みを受け取っていく。イエス様との一致を求め続ける心を新たにしながら、このごミサさを通して、一人ひとりの中に、信仰へと呼ばれた神様、イエス様ご自身の力が働くことを願いたいと思います。

ミサ説教はカトリック高円寺教会ホームページの「ミサ説教」のページにも掲載されています。

PC <http://www.koenji-catholic.jp/cgi-bin/wiki/wiki.cgi>

携帯 <http://www.koenji-catholic.jp/mobile/>